

夏前必読ハチ対策

依田林業新聞

発行所

(有) 依田林業
塩山事務所

「強く見せる」努力はやめて
「強くなる」努力をすることだ
前向きになれる一言

林業関係者でハチに刺されたことがないという人は少ないくらい、下刈り期はハチ対策に注意しなければなりません。まずはハチを知り、少しでも防御出来る様にしていきましょう！！

日本において人に刺すハチは3種類です。刺すのはメスの働きバチのみとされています。

①スズメバチ (毒針4~7mm)

ハチのなかでも攻撃性が強く毒性も最大。中でもオオスズメバチが最も凶暴。夏になると、キロスズメバチやミツバチの巣を襲い、幼虫をエサとしている。

- 体はオレンジ系が多い
- 巣は丸い(フラスコ型)
- 巣は最大80センチ

4月~5月	女王蜂が冬眠から目覚める。1ヶ月かけて巣作り・産卵・幼虫の世話。
6月~7月	働き蜂誕生。巣が急速に大きくなる。
8月~10月	巣の大きさ・攻撃性ともにピーク。かなり凶暴。10月に新しい女王蜂誕生。
11月~3月	働き蜂の死。女王蜂の越冬。(※12月頃まで活動的な種あり)



②アシナガバチ (毒針5mm)

基本的にはおとなしい。刺さると強い痛みはかき出し、腫れ化しやすい。攻撃対象に体がぶつかると、反射的に毒針が飛び出て刺さる。

- 体は黄色系の色が多い
- 巣はシャワーヘッド型
- 巣は最大15センチ

4月~6月	女王蜂が冬眠から目覚める。巣の部屋一つずつに卵を産み、働き蜂誕生。
7月~8月	巣の大きさ・攻撃性ともにピーク。2階集めるため飛び回る。
9月~10月	新しい女王蜂とオオスズメバチ誕生。
11月~3月	働き蜂の死。女王蜂の越冬。



③ミツバチ (毒針2~3mm)

基本的にはおとなしく、刺さると強い痛みはかき出し、腫れ化しやすい。攻撃対象に体がぶつかると、反射的に毒針が飛び出て刺さる。

- 体はズンズン太め
- 巣は板型
- 巣は最大1メートル

3月~5月	育児や巣作り、群の数が急速に増える。女王蜂は毎日1000前後の卵を産む。
7月~8月	育児終了。働き蜂を食べて過剰。
9月~10月	さらさら増殖。越冬準備。
11月~2月	群が体を寄せ合い越冬。越冬。



スズメバチの行動範囲は広く半径約1kmとされています。人を刺すまでの警戒行動は、あくまでも巣を守るための防御反応であり、何も無に攻撃はしにくくありません。警戒行動を把握しましょう。

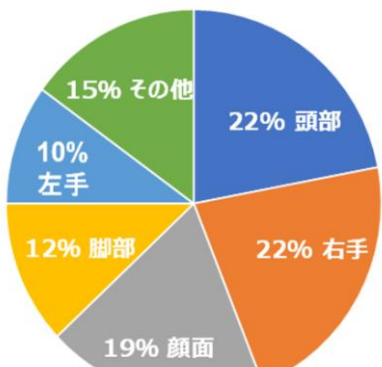


ホバリングと、威嚇音で気付くことが出来れば、身を低くして、斜面下側に離れることにより、危険を回避できます。

- ハチが更に興奮すること
1. 黒く動くもの (視力が弱いため、白黒しか見えない)
 2. 素早い横の動き (昆虫は動くものしか認識できない)
 3. 整髪料などに含まれる成分 (匂いに敏感)

防護・対策・便利アイテム

蜂が攻撃してくる部位



参考:『おどろきのスズメバチ』中村 雅雄著

3D 形状防蜂手袋 (八戸森林組合) 手の甲の部分にプラスチックが入っており、針の長さを防げる



空調服 (マキタ) 膨らむことで、針の長さ以上の隙間を生む。マキタはハーネスを中から通せて膨らみの邪魔をしない特徴がある



電動刈り払い機 音の大きさを軽減させられるバッテリー式の刈払い機。進化が進み、パワーとバッテリーの持ちもよくなっている (バッテリー3個で6時間使用可)

